



特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

里山だより

2006年6月

初夏号 26号



日本ミツバチの巣箱をナショナルトラスト地裏の新しい里道に設置しました。

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

〒518-0762 三重県名張市上三谷268番地の1

TEL 0595-64-0051

fax 0595-63-4314

ホームページ：<http://akame-satoyama.org/>

※ホームページを開いてメルマガの読者として登録してください。

面白い情報があなたのメールに届きます。



(特) 赤目の里山を育てる会 創立10周年記念事業

第14回全国雑木林会議三重大会 in 赤目の森 着実に準備進み 申し込み受付始まる！

エクスカージョン9月14-16日 本会議 17-18日

赤目の里山を育てる会は、10年前の1996年2月18日に名張市南西部丘陵地を大規模開発から守り発展させるために、地元の人と大都市の人たちが集まり結成いたしました。

今年で満10周年を迎えました。これも、ひとえに赤目の里山を育てる会会員の皆様や会をご支援いただいている全ての皆様のご協力の賜物と深く感謝いたします。

この10周年を記念して、昨年より準備しておりました第14回全国雑木林会議三重大会の実行委員会が2月に結成されまして、順調に用意が進んでおります。

今回の大会では、里山での事業型保全の取り組みがポイントとなっております。これまで、里山の保全は、時間とお金に余裕のある方や行政に関係のある方々が中心となり進められてきましたが、日常的な取り組みを進めるためには、フィールドに拠点を構えて事業を行いながら、里山保全を進めていく取り組みに注目が集まるようになりました。

エコリゾート赤目の森を中心とした赤目の里山を育てる会の取り組みは、まさに全国の先駆けとなるような取り組みであり、その存在がやっと注目されるようになり、雑木林会議を開催することになりました。

この会議のテーマは、「伊賀忍者の里 赤目の森からの発信 秘伝里山利用のすべてを明らかに」というもので、伊賀の里で行われる今回の会議を、忍者をモチーフに全国に発信しようと考えたものです。

内容は、今日的な里山の課題や関心事を中心として取り組まれており、基調鼎談には、日本NPOセンターの山岡義典氏 京都学園大学の教授で全国雑木林会議の幹事役の中川重年氏 韓国建国大学の副教授 金才賢氏で行われて、プラスワンで当会の理事長の伊井野雄二氏がコーディネーターで参加します。

また、最近里山のクヌギやコナラが立ち枯れする状態が全国的に見られますが、この問題も取り上げます。「カシノナガキクイムシとナラ菌が里山を襲う」と題しての緊急講演や愛知県で里山を利用して、保育から介護まで幅広い取り組みを続けているゴジカラ村株式会社代表取締役吉田一平氏の講演も容易しています。

今回のエクスカージョンは、これまで同時平行的に行われていたものを大胆に、直列的にすることで、三重県のすべてを見ていただくという意欲的なものとなっています。プレの南の南紀 御浜町の志原川の棹差し舟から始まって、世界遺産の熊野古道「馬越峠」や12代続いている吉田本家のFSCの森や、今回の目玉である伊勢神宮林の見学、三重県最大のモミツガ林 日本で最後の萱場 曾爾高原を見ていただくと考えています。3日間に渡るエクスカージョンは全国雑木林会議では初めての取り組みです。

会議への参加申し込みは、FAXが中心となりますが、インターネットを利用したWEB上での申し込みもできるようになり、事務局ではそちらの方での申し込みを呼びかけています。

当会が事務局を担当する今回の第14回全国雑木林会議。様々な初めての取り組みが多い中での取り組みですが、これまでの10年の経験を全国に発信できるように頑張りたいと思います。会員の皆さんも、一人でも多くの人たちを誘って会場に足を運んでいただきますように、心からお願いをいたしたいと思います。また、運営に際しましての、カンパ・寄付のご協力をよろしくお願いいたします。

(特) 赤目の里山を育てる会の各種助成金事業のご紹介

現在、当会でされている各種公益事業は、下記の通りです。時代の要請に応じて、今里山に必要な課題を、行政や公益団体と協働して取り組んでいます。

2006年名張市市民活動実践事業

* ユニバーサル・ウォークで環境と健康を体感しよう

多くの人たちが関心を寄せる健康。最も身近な健康作りで人気のある「ウォーキング」ただ、歩く行為そのものが、身体に負担をかけている場合が多く、歩くことを学び、いつでも誰でもどこでも歩ける環境を里山で取り組もうと提案したものです。

7月2日に第1回を行い、17名の参加で有意義に行われました。5回シリーズ。

* 四季折々の里山体験での原風景作り講座

今最も社会的な関心は青少年の社会的な問題事件です。その原因の一つに自然とのふれあいの不足からくる「原風景喪失」による自我の喪失ではないかと言われています。自分たちの生まれた地域の自然を1年を通じて体感し、身近な自然がどのようなものかを心の中に染み付かせる取り組みを私たちの会は提案し、採択となりました。

第1回は7月16日で、4回行われます。

2006年日本財団

* 森林・竹林等整備に係る機材整備事業

当会では木質バイオマスエネルギーの「小規模分散・自立型」を提唱し、実践してきました。昨年日本で最小のペレタイザーを設置して、それに不可欠な「チップ&チョッパー」の設置をこの事業で提案し採択を得て設置することができました。

過日の里山の保全の取り組みで充分にその威力を示してくれました。



機械を使っでの作業

2006年 国土緑化推進機構

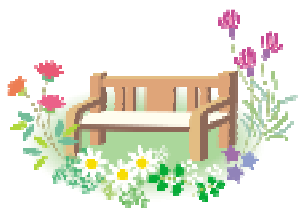
* 耕作放棄地の森作り

全国には、数万ヘクタールの耕作放棄地があるといわれています。この放棄地を豊かに利用し、国土を蘇らせようという提案です。当会では赤目の里山の内部やその周辺の全体的な状況を把握して、動植物の動向や廃棄物・ゴミなどの廃棄状況の調査を行ってきました。7月30日には、里山祭として市民の皆さんとともに、これからの里山作りや日本の森林について考えていきたいと考えています。

* NPO創造的「森林づくり企画」アクションプラン

地元里山所有者のネットワーク化で、「原風景」を守り育てる。

この事業は、つい最近採択された事業で、「地元里山所有者のネットワーク化で、「原風景」を守り育てる」というテーマです。伊賀の森林所有者はおよそ28000人ですが、その中で森林組合員は15%です。その15%の人たちの所有森林面積は、伊賀の森林の50%となります。つまり、85%の多くの人たちの所有する合計森林面積は50%ということになります。森林整備を取り組むためには、この85%の人たちへの対応をどのように取り組むかが大きな課題となっているという事がいえます。私たちは、この人たちのネットワーク構築が大切ということで提案し採択となりました。事業は、これから一年間です。どこもやっていないような新しい成果が得られますように頑張りたいと考えています。



2005年12月～2006年6月

赤目の里山を育てる会活動記録

赤目の里山を育てる会を発足してから10年が経ちました。

今まで、育てる会を応援し支えて頂いた皆様には、心から感謝いたしております。

これまで、赤目小学校の野外活動授業や里山総合講座、各種イベント、介護保険事業「デイサービス赤目の森」などの活動により、地元へ発信し続けてきました。赤目の里山を育てる会も地域に根ざしつつ頑張っています。

年2回の国際ワークキャンプ、週末ワークキャンプ、青年たちが企画をする「里山フェスタ」など国際的にも、赤目の森に関わる方も多くなりました。里山保全から里山の利活用を考えて、色んなアイデアが里山で展開しています。今年、第14回全国雑木林会議が赤目で開催される事になりました。10年の節目としてふさわしいイベントになると思います。今、里山は、全国から熱い思いが寄せられ「第14回全国雑木林会議実行委員会」で頑張っています。今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

<里山総合講座> 2005年12月から2006年4月まで



里山リーダー養成講座では、赤松枯れの間伐やナショナルトラスト第一号地を周遊できる新しい里道の整備を中心に行ってきました。

林内作業車やチップャーチョッパーなどの機器で処理された里道は、段々綺麗になっていきます。女性でもチェーンソーを使いこなし、里山保全を体得され、休日には里山の間伐なども楽しんでいる方もいらっしゃいます。

森と会話しながら木を切るという受講生の芝田香象さんは、全国雑木林会議副実行委員長で大活躍！！これまた「楽しんでやってます！」とのこと…。凄いパワーのみなさんです。



レディース講座では、受講生の方に講師になって頂き、特技を披露してもらい、楽しい時間を過ごしました。

今回の雑木林会議でも分科会を担当して頂くことになりました。頑張ってくださいね。

・天然酵母のぱん作りの講師：坂上優子さん・籠作り講師：平原スガ子さん（右端）



里山総合講座の修了式↑
修了証を授与の後、こもれびテラスでお祝いパーティー

↓国際ワークキャンプの青年達が作ったミツバチの巣箱を設置する受講生のみなさん。



<週末ワークキャンプ> 06年2月18日～19日



います。

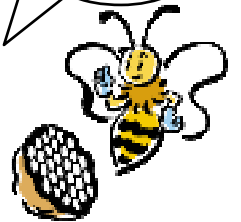
赤目で週末ワークキャンプを初めて行いました。ペレット作りや講座生の方と味噌作り、里道の整備など2日間では足りない位の内容でしたが、今後も若い青年が気軽に関われる「里山」でありたいと思っています。



<日本ミツバチの設置>



大内山グリーンパークの門浦さんのご協力を得ました。



<第14回全国雑木林会議実行委員会>



06年2月18日 準備会・第1回実行委員会

5月21日 第4回実行委員会

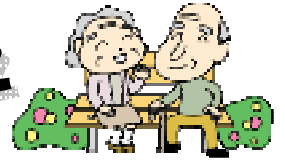
<国際ワークキャンプ>06年3月20日～4月3日

<赤目小学校野外活動授業 春>5月1日





デイサービス赤目の森の様子



平成18年4月から介護保険法の改正で介護保険報酬の見直しや、予防介護の促進によりデイサービスで担わなければならない課題も増えてきました。

予防介護の取組みとして、今年の1月から始めている「転倒予防体操」は利用者の方にも足腰や腹筋がついて体調がよくなったと好評です。デイサービスで過ごしていただくプログラムも季節を感じていただけるよう企画を考えています。

お花見も名張から近い名所を巡ったり、節分には、食べるだけで無くお一人ずつ巻き寿司を巻いて頂いたり、そば打ち体験も行うなど充実した日々を過ごしておられます。

また、外出支援では、5月に「海遊館」に行ったり、映画鑑賞会を月1回設けて映画が見たい方は、参加していただいています。

利用者の方の表情が豊かになっていくのが職員の楽しみでもあります。



桜の下で



こもれびテラスでお茶



菖蒲園にて



巻き寿司を作る



大阪の海遊館へみんなで出かけました。



火鉢でかきもちを焼く

第9回 定期総会開催 各種提案事項 承認 新役員決定

第1回理事会開催 新理事長に伊井野雄二氏を選出

6月11日に第9回の定期総会が行なわれました。総会には84名（出席会員11名 委任状73通 過半数以上で成立）が参加して、この間の活動報告、決算を承認し、新しい年度の予算・活動方針を審議の上に採択する事ができました。そして、新しい役員を選出して新しい取り組みが始まりました。

この中で、介護事業の収入が事業を始めてから初めて前年を下回り、車検などの支出が経営を圧迫して困難な状況でしたが、最近の状況は収入状況も好転して、前向きに取り組める状況になっていることなどが報告されました。今年度の定期総会では、役員任期満了に伴う新役員の選出が行われました。新しい役員の立候補はなく、理事・監事ともにすべての役員が再選されましたが、これまで理事長を務めていただいた吉森加大理事長の理事長および理事退任の報告がなされて了承を得ました。定期総会後に開催された第1回理事会で、新理事長に副理事長の伊井野雄二氏が選出され第二代の理事長に就任いたしました。

時代を切り開く青年理事が思う赤目の里山を育てる会の社会的役割と理事の任務

(特) 赤目の里山を育てる会 理事 佐野 憲一郎 (東京在住)

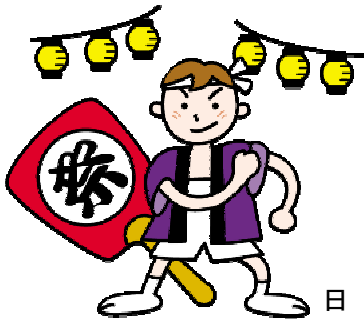
理事を務めている、佐野と申します。日常は大学院で電気工学を学んでいる学生です。赤目の里山に関わってこの夏で5年目に入ります。その間、社会の変化に伴って、デイサービス事業、木質ペレットによるバイオマス事業、日本ミツバチによる養蜂事業、国際ワークキャンプとの連携強化など、育てる会も様々な変化を遂げてきました。他の里山保全団体と比較しても、常に新たな事業を社会へ提言し続ける、数少ない団体の1つであると思っています。主な活動範囲は200haの赤目の里山ですが、そこから提案する新たな事業は、日本全国の里山保全団体へ事例として発信することにより、その何倍もの成果を生んでいます。NPOの業績は、収支などにより定量的に測ることができませんが、昨年環境大臣表彰、そして全国雑木林会議の開催地への推薦・抜擢などは、育てる会が社会的に大きな役割を果たしていることを表すのではないのでしょうか。

現在、育てる会の理事7名は、医療、行政、大学教授、主婦、学生など、様々な背景を持つ人々により構成されています。必ずしも里山に精通した者の集まりではないのが、育てる会の理事会の特徴でしょう。当初、里山に生える植物の紹介もできない私が理事を務めていて良いのかと思いました。自分の学ぶ電気工学の知識なども、電気の来ない里山の中では何の役にも立たないと思っていました。

しかし、育てる会が新たな事業を打ち出す中、理事それぞれが自分の得意な分野の能力を発揮しつつ、お互い補完をしながら行われました。私は若者ボランティアのサポート、会のIT環境の整備などを担当し、微力ながら会の運営に協力しています。

会の事業に変化が無かったならば、多くの理事は活躍の場は無かったでしょう。しかし、近年の社会の変化に対し、新しい事業の提案で即座に対応できたのは、一見無駄にも見える、里山をよく知らない人の集まりが、自分の得意分野を生かして補完できたためでしょう。現在のよう、1年後すらよくわからない時代に、長期にわたりこの里山を育てるためには、変化に対応できるこのような組織は、非常に有効に働くものと思っています。

新たな事業への取り組みのため、事務局は日々慌ただしく動いています。育てる会の会員の皆さまの、ご協力、ご支援、ご声援、そして何よりも、赤目の里山に足を運んで下さることが大きな励みとなります。久しくお出ででない方は、ぜひ一度、成長した里山の姿をご覧ください。



国土緑化推進機構「緑の募金」事業

森づくりセミナー「耕作放棄地の森づくり」

里山祭

第14回全国雑木林会議 三重大会in赤目の森 プレ企画

日時: 2006年7月30日(日) 午前9:30~午後3:00

場所: エコリゾート赤目の森(名張市上三谷268-1) 参加費: 無料

※送迎希望の方は、近鉄赤目口駅に9:00集合

- 9:30 開会あいさつ
 - 9:45「石窯で焼こう! 天然酵母のパン作り」
「天然素材でかご作り」
 - 12:00 そうめん流し大会 (ランチタイム)
 - 13:15 ミニコンサート(二胡演奏)
 - 13:30 プチ里山シンポジウム(中川重年氏:伊井野雄二氏 対談)
 - 14:15 間伐材からバイオマスエネルギーまで チェーンソー:薪割り機:チップパーシュレッダー:ペレタイザー稼働実演・体験植林
 - 15:00 森の中でティータイム
- 終了予定

赤目の森探検

* 世界一小さなハッチョウトンボ
を見に行こう!!

【赤目の里山を育てる会のメルマガの読者になってください】 現在260名様

赤目の里山を育てる会のホームページ <http://akame-satoyama.org>

このページで、メールマガジンを発行しております。読者登録をしていただくと、無料で毎月、赤目の里山を育てる会 エコリゾート赤目の森の情報を受け取ることができます。ぜひ ご登録を

【新入会の皆様】(06年7月10日現在)

- 佐野 憲一朗さん 東京都足立区
- 芝田 香象さん 名張市
- 田口 久さん 名張市
- 坂上 優子さん 名張市
- 平原 スガ子さん 大阪市生野区
- 森川 美保さん 伊賀市

赤目の里山を育てる会の現状

個人会員 145名

賛助会員 14団体個人

みどりの募金累計金額 391万円

名張市の会員が増えていますが、都市住民の方々の退会と相殺されています。

厳しい社会を反映していると思います。

【運営募金】

2005年11月30日雨森孝悦様

5万円 2005年12月7日山上佳代子様1万円

2006年1月29日 会員の福森亮二様30万円
寄付がありました。里山の保全や機器の整備などに使わせていただきました。どうも、ありがとうございました。今後とも変わらないご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

【編集後記】

無事に定期総会が終わりました。事務局では、法務局への登記申請の仕事がありますが、書類の書き方から勉強しなおしていくのですが、やはり書き直しの箇所が何箇所かあります。桔梗が丘の法務局まおよそ12キロ。何度も通って登記をしないと、過料に処されます。経験を大切に的確に事務仕事をするこの、大切さを学んでいます。